

英米文化学会会報

第 89 号

平成 23 年 10 月 15 日



雪を頂いた岩山と不毛の大地。カリフォルニア州のオーエンズ・バレーを奥へ奥へと進むと、第二次世界大戦中に在米日系人たちが収容された施設のひとつ、マンザナール収容所跡がある。極寒の冬と灼熱の夏を過ごさざるを得なかった日系人たちは、ここで何を思ったのだろう。(撮影：佐野 2005 年 1 月)

目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 136 回例会のお知らせ
- ◆ 分科会担当より 分科会「イギリス近代演劇と劇場
—19 世紀末～20 世紀初頭」開催のお知らせ
- ◆ 学術担当より 学会誌『英米文化』第 42 号論文募集
- ◆ 寄稿 定年を迎えるときに何を？
- ◆ 財務担当より 未納年度分の年会費について（再掲）
- ◆ 事務局より 会報の電子化・会員消息

◆ 英米文化学会 第 136 回例会のお知らせ

(例会担当理事： 田嶋倫雄)

日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）午後 3 時 00 分～6 時 00 分
午後 2 時 30 分受付開始予定

場所：日本大学歯学部 4 号館 3 階第 3 講堂<地図は 4 ページに掲載>
(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町他下車)

懇親会：会場：日本大学歯学部 3 号館地下ラウンジ

時間：午後 6 時～8 時 懇親会のみ参加も歓迎いたします。

会費：1,500 円

開会挨拶

英米文化学会理事長

佐藤治夫（日本大学）

（3：00－）

研究発表

1. 『ハリー・ポッターと賢者の石』（*Harry Potter and the Philosopher's Stone*）
の書籍版とオーディオブック完全版の言語の不一致

（3：10－3：40）

発表 河野恭平（大東文化大学大学院）

司会 鈴木理枝（国際短期大学）

2. 『失樂園』におけるアダムと天使ラファエルの対話
－エリート教育の場としての機能

（3：40－4：10）

発表 菅野智城（法政大学）

司会 山根正弘（創価大学）

----- 小休止（4：10－4：20） -----

3. アメリカ黒人女性文学における成功のヴィジョンの変遷：家を手がかりに

（4：20－4：50）

発表 大橋稔（城西大学）

司会 小林弘（東京理科大学）

4. 英語教育における認知言語学的アプローチ：

Eyes on Japan の英語学習初級者に対する活用法 （4：50－5：20）

発表 森千佳子（東京純心女子大学）

司会 松谷明美（高千穂大学）

閉会挨拶

英米文化学会会長

小野昌（城西大学）

（5：20－）

研究発表抄録

1. 『ハリー・ポッターと賢者の石』 (*Harry Potter and the Philosopher's Stone*) の書籍版とオーディオブック完全版の言語の不一致

発表 河野恭平 (大東文化大学大学院)

書籍を朗読し音声として録音したオーディオブックには、要約版と完全版がある。前者は時間の短縮という理由で、言語が省略されているという、書籍版との不一致が存在するとされている。一方、後者は書籍版との言語が完全に一致しているとされている。しかし、小説『ハリー・ポッターと賢者の石』 (*Harry Potter and the Philosopher's Stone*) の書籍版からコーパスを作成し、さらにそのコーパスから書籍版用とオーディオブック完全版用のスクリプトを作成し両者を比較したところ、多少ではあるが言語の不一致が確認された。

本発表では、小説『ハリー・ポッターと賢者の石』の書籍版とオーディオブック完全版に確認された言語の不一致の割合と特徴を確認しつつ、そのような言語の不一致が書籍の内容に与える影響、またオーディオブック完全版における情報の不完全性についても論ずる。

2. 『失樂園』におけるアダムと天使ラファエルの対話 —エリート教育の場としての機能

発表 菅野智城 (法政大学)

ジョン・ミルトン (John Milton) は、思想家サミュエル・ハートリブ (Samuel Hartlib) の要請により 1644 年に『教育論』 (*Of Education*) を発表した。将来の指導者層の若者を、国家を導く人材として育成することが教育の目的とされている点で、この教育パンフレットはミルトンのエリート教育論と位置づけられる。ミルトンのエリート教育思想は『失樂園』 (*Paradise Lost*) 第 7、8 巻の天使ラファエルとアダムの対話に見ることが可能である。ラファエルはアダムの求めに応じて天地創造について語るが、一方で過度な知識への要求を戒めてもいる。対話の中で重要視されているのは、単なる知識や技能の獲得ではなく、人類を幸福へ導くという使命の自覚である。このことは、ミルトンが墮落以前のアダムにエリートの資質を付与していることを意味するのである。本発表では、『教育論』のエリート教育思想と、『失樂園』におけるアダムの教育について、17 世紀イングランドの教育事情との関連の中で考察する。

3. アメリカ黒人女性文学における成功のヴィジョンの変遷：家を手がかりに

発表 大橋稔 (城西大学)

ハーレムルネッサンス期以降のアメリカ黒人女性作家たちは、成功のヴィジョンを示すためにさまざまな夢を描いてきた。そのなかでも家を持つという夢は、多くの作家たちが描いたテーマであった。なぜなら資本主義社会において家を持つことは、経済的に成功したことを示す象徴的な行為だったからである。しかし家を持つという夢に対して付与された意味は、時代によって異なるものであった。

1950 年代に始まる公民権運動は、黒人の意識を大きく変革した。それは当然、彼女たちが描く成功のヴィジョンにも影響を与えることになった。本研究では、1940 年代以降に描かれた黒人女性作家の作品を扱う。この時代に描かれた、黒人が家を持つことに付与された意味の変遷を明らかにし、黒人が成功を達成するためには黒人という人種への忠誠と、黒人であることに誇りを有することが必要であったことを論じる。

4. 英語教育における認知言語学的アプローチ: *Eyes on Japan* の英語学習初級者に対する活用法

発表 森千佳子 (東京純心女子大学)

英米文化学会の「認知言語学に基づくテキスト研究分科会」が執筆し、平成23年3月に金星堂から発刊された *Eyes on Japan* は、認知言語学の理論を英語教育に応用した画期的なテキストである。本発表では、ターゲットとしている low intermediate (TOEIC300-400 レベル) の中でも特に初級者 (TOEIC300 点レベル) に対し、どのような工夫をすれば、より有効に活用できるかを授業実践報告という形で提示する。具体的には、リーディングで英文構成の基礎を確認し、パラグラフ・リーディングへと発展させた。新出語彙はペアワークで徹底的に理解・確認させた上、全体で復習した。文法解説はテキストの図や説明を活用し、練習問題は視覚教材を用いて理解の定着を図った。発展的な問題では教員が数パターンの英文表現を用意して選ばせ、円滑な活動となるよう配慮した。学生へのアンケート及び採択していただいた教員へのアンケート結果も参考にしながら、本テキストの効果的な活用法を考察する。

◆英米文化学会第137回、第138回、第139回例会 (平成24年度分) 発表者募集

上記の例会の発表者を募集いたします。期日は未定ですが、平成24年6月、11月、平成25年3月の予定です。発表時間は30分もしくは40分です。発表の希望者は、氏名と所属 (勤務先)、研究発表題名と抄録をメールで、以下のメールアドレスにお送り下さい。

発表申し込み先: 例会担当田嶋倫雄 MichioTajima(at)SES-online.jp です。

* 例会会場 (日本大学歯学部) 例会(3時~)は4号館、懇親会(6時~)は3号館です。



(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町他下車)

◆ 分科会担当より 分科会「イギリス近代演劇と劇場
——19世紀末～20世紀初頭」開催のお知らせ
(分科会担当理事：須田理恵)

平成23年11月12日(土)例会終了後に同会場で会合を行います。
発起人代表 藤岡阿由未

本分科会が企図するのは、上演の観点から見たイギリス近代、特に19世紀末から20世紀初頭の演劇の共同研究およびその研究成果の発表です。この時期に焦点を当てる理由は、戯曲上演のみならず多様なエンターテインメントを生んだこの時期の豊かな演劇文化の開花にあります。当時のイギリスの劇界は、ヴィクトリア朝の伝統を維持する一方で、ヨーロッパ大陸のまったく新しい演劇思潮を移入し始めていました。まさに交錯する伝統と革新こそが、この時期の演劇の豊潤さを生み出したと言えるでしょう。

本分科会では、この時期の演劇研究を「劇場」をキーワードとして進めていく方針です。ロンドンの劇場は、たとえば劇場名を冠する「サヴォイ・オペラ」というジャンルを生み出すほど、それぞれの劇場が特定のジャンル創造の拠点として存立していました。創造の拠点としての劇場は、言うまでもなく上演が行われる空間です。したがって、研究対象には上演台本、興行主、演出家、俳優、美術、照明など作り手の要素をまず含めます。しかし「劇場」はまた、その時代の人々が観客として集う空間でもあるため、舞台面のありようのみならず、当然ながら観客の受容も研究の射程域に入れることになるでしょう。以上のような「劇場」という空間的なアプローチによって、当時のイギリス演劇の実践のみならず、人々の生活と緊密な関係にあった演劇文化の全体像までもも焙り出すことができると期待もあります。

エドワード朝時代の演劇創造の拠点となったいくつかの劇場(ライシウム劇場、ヒズ・マジェスティーズ劇場、コヴェント・ガーデン劇場、サヴォイ劇場、セント・ジェームズ劇場、ロイヤル・コート劇場、ロンドン・コロシウム、エンパイア、アルハンブラ等)を取り上げて、メンバーがそれぞれの研究発表を予定しています。

本分科会の趣旨に賛同し、また参加を希望される学会員の方は藤岡阿由未 Theatre(at)ses-online.jp まで、ご一報いただきたいと思っております。

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただきます。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆ 学術担当より 学会誌『英米文化』第42号論文募集
(学術担当理事：君塚淳一)

当学会の学会誌『英米文化』第42号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当の君塚淳一（〒311-4151 水戸市姫子 1-785-18）までお送りください。

学会誌『英米文化』投稿規程

<投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

<執筆要項>

1. 長さ・形式 和文論文は12,000から16,000字数の間にまとめる。A4用紙に38字×25行、フォント12で打ち出す。英文論文も5,000から7,000語数を目安とし、A4用紙に75字×25行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文のAbstractをつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所で日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどの記録媒体いずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一頁につき2000円である。

以上

◆ 寄稿 定年を迎えるときに何を？

理事長 佐藤治夫

とうとう40年近く務めた英文学者・大学教員という仕事から、足を洗う時があと2年ほどに迫ってきました。でも定年という事態の受け止め方にも人それぞれですね。もう亡くなられた理事ですが、その定年に際して、私が電話で定年おめでとうございます、と申し上げたら「皆さんから定年おめでとうと言われるけど、本当におめでたいことなのか、私は迷っているのです」との事でした。「いや、今までにご同僚で定年前に亡くなられた方もいらっしゃるでしょう？そういう事態を招かずに、健康でボケもせずに定年までいられるということが、おめでたいと言う意味で、皆様はお祝いの言葉をおかけなのだと思います」「ああ、そう考えればいいんですね。じゃあこれは喜ぶべきことなのですね」と、やっと喜んでいただけたのを懐かしく思い出します。ああ、やはりめでたいことなのだと今更ながら考えています。

さて準備の方はというと、まず気にかかるのが、今まで苦勞して集めた学術書・一般書の処理です。もうあれこれと学者らしいことをやるのは止して、後は他人様の研究を、フーンこれも面白い分野だなあ、くらいに楽しむことにしているので、書籍は処分しようと思います。でも定年になる同僚が大学図書館で引き取らないので、廊下に大量に書籍を置いて清掃員に廃棄させているのですが、あれはやりたくないと思います。そこで英米文化学会もリンクしているアマゾン書店からの、月五千元程度の出店費用を一年間無料というオファーに飛びつき、アマゾン内にオンライン書店を開き、すでに幾冊か出品しました（お店の名前はヒミツ、書肆????）。これから本格的に出品が始まるのだけれど、他の書店よりも安く（むかし仕入れて、論文書いてしまったので原価償却は済んでいますものね）出品して嫌がられるでしょう。きれいさっぱり売り払って、自室を空にしてしまおうと思います。もうすぐ蔵書数100万冊になりそうなキンドルなどの電子書籍で充分楽しめますから。英語のペーパーバックなど、売るのが困難な書籍は、居住地の公立図書館に寄付書籍コーナーが設けてあるので、こちらも解決。

本当は定年後に始めようと思っていた、ドイツリートレッスンをすでに数年前から受けていて、すでに何回もステージで歌っています。定年後はアマチュア（つまりお金を取れるレベルではない）歌手として再出発して、高校生の時にクラシックの歌手になりたかった夢をちょっぴり叶えようと思います。もう声量もおちてきているし、なんと言ってもドイツ語の歌を暗譜するのに時間が余計にかかるようになってきているから、やはり歳なんだなと感じているのですがね。高校2年生のとき音大受験したいと相談したオペラ歌手（高校の音楽担当教諭）に、「君は英語が得意なんだから、音大の音楽科なんか行って、私みたいに苦勞することはないんだ。音楽は趣味でやると楽しいんだよ。英語の先生になるのも嫌ではないというのだから英語の先生になりなさい」と諭されたとおりの人生になるのも、運命なのではないでしょうか？

その先生がまだご存命なのがわかり、先生のアドバイスの通りに生きてきて、ふたたび声楽家を目指していて、幸せですと感謝の手紙を出しました。やはり私にとっても目出度いんですね。

◆財務より 未納年度分の年会費について（再掲）

（財務担当理事：山根正弘）

過去に未納がある場合、振り込まれた最新の年会費は未納年度に振り替えて補填するため、実際に入金した年度と年会費台帳上の記録が一致しないことがあります。皆様の年会費は入金年月日・入金額・年度・入金方法（郵便振替通知票の続き番号）など漏れなく記載し責任をもって管理させて頂いております。

今年度分の年会費納入がお済みでない方は、お早めに郵便振替にてお振込み下さいますようお願い致します。

なお、振替用紙は5月の会報に同封いたしました。ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票も利用できます。

年会費 : 5, 000円

口座番号 : 00160-7-611777

加入者名 : 英米文化学会

納入状況は、山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp に問合せ下さい。

◆事務局より 会報の電子化・会員消息（事務局担当理事：大東俊一）

*会報の電子化

これまで印刷した会報を皆様のお手元に郵送してまいりましたが、平成24年度より紙媒体によるお届けを廃止し、ホームページで公開しております電子媒体の会報に一本化する方向で検討を進めております。平成24年度につきましては過渡的措置として各例会、大会前に、封書もしくはハガキにてご案内を差し上げる予定です。

*会員消息

省略

英米文化学会会報 第89号 編集／発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>